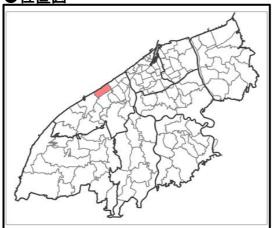
●住所名称

<u> </u>	
五十嵐1の町	
五十嵐2の町	
五十嵐東1~3丁目	
上新栄町	
上新栄町1~6丁目	
寺尾北1・2丁目	
寺尾台3丁目	
寺尾	
寺尾中央公園	
寺尾西1~5丁目	

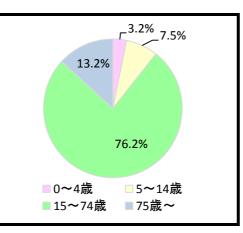




●施設・団体

<u> 心议 - </u>							
市役所	f·区役所等	_					
警察•消防		五十嵐交番					
消防団		西方面隊 坂井輪分団・内野分団					
水防倉庫		_					
一時退	壁難場所						
広域退	壁難場所	寺尾中央公園					
主利な		明美ヶ丘幼稚園、ノートルダム幼稚園/松の実保育園、松の実第二保育園、 明美ヶ丘保育園、ノートルダム保育園					
用要 高齢者 施配 福祉施設		_					
設慮者	障がい者 福祉施設	オーロラ、和工房(やわらぎこうぼう)、結屋、陽廣園					

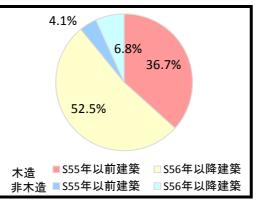
総人口	19,820人	地区の割合	市の割合
0~4歳	633人	3.2%	4.0%
5~14歳	1,478人	7.5%	8.5%
15~74歳	15,096人	76.2%	74.6%
75歳~	2,613人	13.2%	12.9%
65歳以上人口	5,286人	26.7%	26.0%
世帯数	9,300	世帯	
一世帯あたり人口	2.1人	/世帯	2.5人/世帯
人口密度	5,532人	√ k m i̇́	1,108人/km²
昼間人口	12,643人	夜間の63.8%	



●建物関連指標

	総棟数	8,668棟	地区の割合	市の割合			
_	S55年以前建築	3,177棟	36.7%	44.2%			
木造	S56年以降建築	4,547棟	52.5%	46.7%			
坦	計	7,724棟	89.1%	90.9%			
非	S55年以前建築	354棟	4.1%	3.4%			
木	S56年以降建築	590棟	6.8%	5.7%			
造	計	944棟	10.9%	9.1%			
S	56年以降建築物	5,137棟	59.3%	52.4%			
	S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震						

※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名	標高	階	避難可否			
[ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	(m)	数	地震	津波	洪水	土砂災害
[t]五十嵐小学校	16.0	4	0	_	全階可	_
[t]五十嵐中学校	5.0	4	0	_	全階可	_
[ヒ]五十嵐コミュニティハウス	20.8	2	0	-	全階可	_
			_	_	_	_

●地区外の避難所・津波避難ビルなど

地位がり近無り 一年収起無しかると		17FF		> □÷ ++ <i>t</i> L		
施設名	標高	階	避難可否			
[ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	(m)	数	地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ][ツ]新通小学校	-0.2	4	0	3階以上	2階以上	0
[ヒ][ツ]坂井輪中学校	3.5	4	0	3階以上	全階可	0
[t]新潟大学(体育館)	26.8	1	0	_	全階可	0
[ツ]西区役所本館	-1.1	4	_	3階以上	_	_
避難の可否(災害ごとに表記) :開設する施設を「○」・「避難可能な階数」、開設しない施設を「-」、避難に適さない施設を「×」						

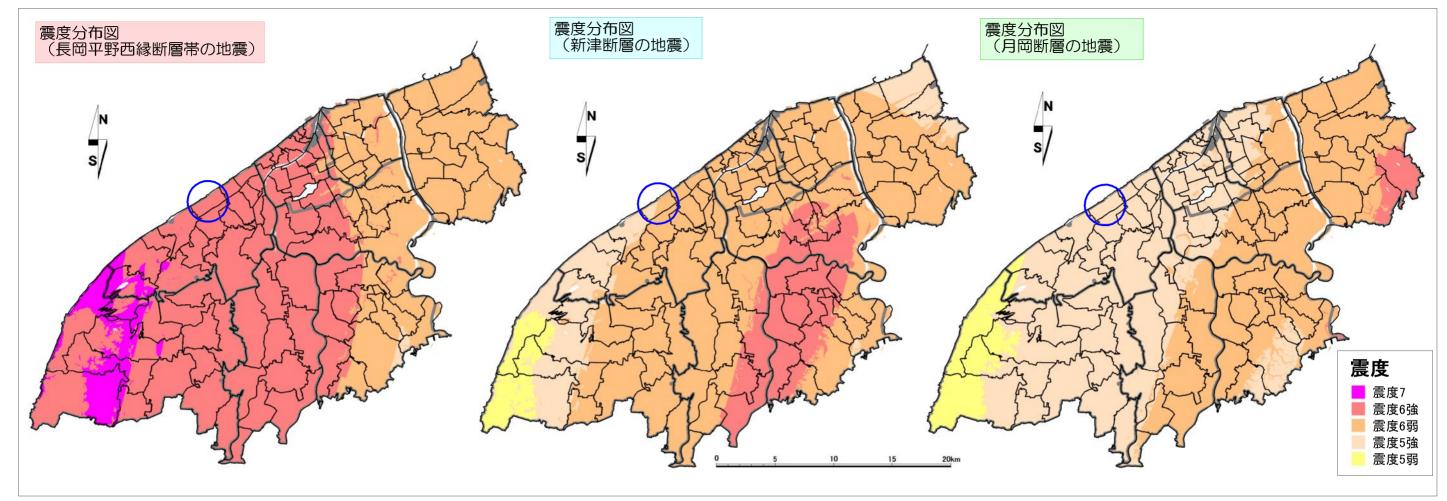
●災害危険性の評価

地区の大部分が、比較的良好な地盤である砂丘上にある。 津波による浸水は、海岸部で想定されている。 波。

土水 砂。

地区内で洪水による浸水は想定されていない。

様式2 震度分布図 五十嵐小学校区



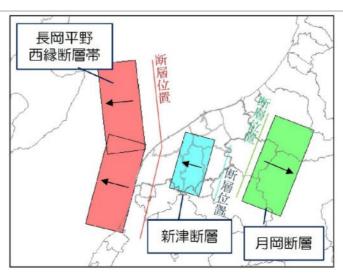
-			
	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模:	7.46	6.45	6.76
モーメント	(気象庁マグニチュード	(気象庁マグニチュード	(気象庁マグニチュード
マグニチュード	7.9に相当)	6.7に相当)	7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年	明確な活動性は明らかになっていない。	平均活動間隔 7,500 年以上
(3.3.)	断層の活動性 3m/千年程度	月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	断層の活動性 0.4m/千年程度

※(参考)国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成27年1月1日) 及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。 【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震 発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は 変わることがあります。

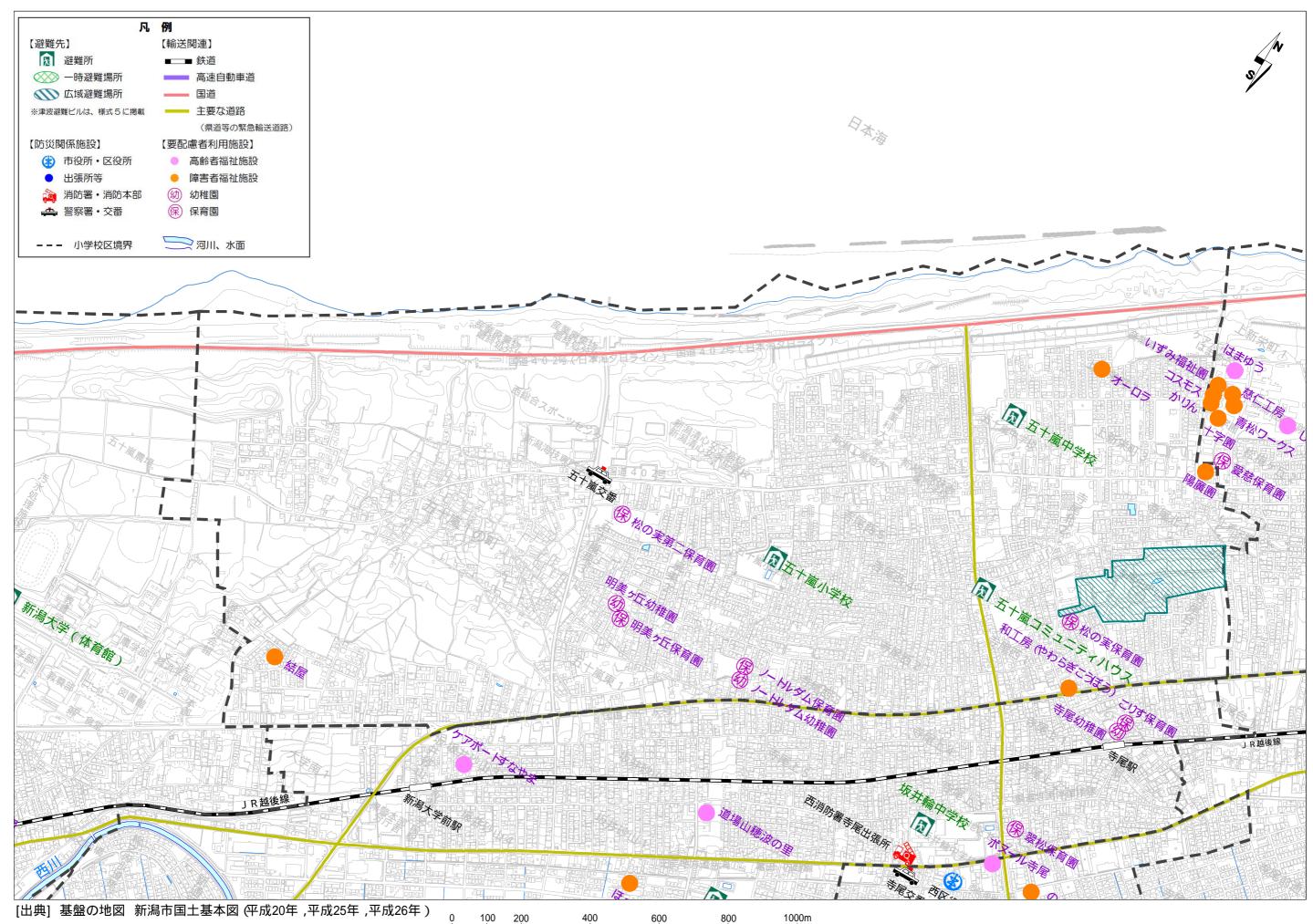
<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



◆ は、断層の傾きを示しています。

様式 3 防災地図 五十嵐小学校区



様式4 航空写真 五十嵐小学校区



